



文化財愛護シンポルマーク

文化財情報

第 88 号

発行
文化財保護委員会
東京都千代田区霞ヶ関三ノ四
坂元正典
責任者集

國立劇場開場式挙行される

東京都千代田区隼町の皇居お堀ばたに誕生したわが国初の國立劇場の開場式典が、十一月一日午後一時から同劇場の大劇場で行なわれた。この日在重典雅な校倉造りの外観にふさわしく、伝統的な日本趣味の内装で統一された場内には、平櫛田中氏作の「鎌獅子」の彫刻や、前田青邨・川端龍子等の画伯の名画が飾られて古典的気品にあふれ、式場は政財界、教育界、芸能界など各界の代表者およそ三千人の著名人で満員の盛況となつた。正倉院の錦製を写したどんちようが上ると、舞台全面を黒幕でおおい、中央に「日の丸」を掲げた壇上に、佐藤總理、有田文部、橋本建設の各大臣、稻田文化財保護委員会委員長等が列坐し、東京芸大教官編成の「君が代」奏樂で式典が始まつた。まず有田文部大臣が式辞を述べ、村山文化財事務局長の國立劇場設立経過報告、小場建設省當繪局長の工事経過報告があり、佐藤總理大臣の祝辭をはじめ、山口衆議院議長、重宗參議院議長（河野副議長代読）、重要無形文化財保持者（芸能）代表の市川左團次氏の祝辭があり、ついで文部大臣から基本設計者代表岩本博行氏および建設工事担当者代表竹中工務店社長へ感謝状が贈呈され、最後に高橋國立劇場会長のあいさつで終つた。このあと同舞台で「バチ渡し式」にひきつづき、祝賀公演「翁千歳三番叟」が、市川寿海、尾上梅幸、中村勘三郎によつてひろうされた。三時からは同劇場大食堂等で祝宴が開かれ、稻田文化財保護委員会委員長のあいさつにひきつづき山口衆議院議長の音頭で乾杯を行ない、同宴中二木參議院文教委員長、日本演劇協会会長北条秀司氏、松竹会長大谷竹次郎氏、國立劇場評議員（八幡製鐵副社長）藤井丙午氏から祝辞が述べられた。また、三時四〇分からは小劇場で花柳寿応、中村福助、板東三津五郎による翁千歳三番叟の祝賀公演があり、以上で開場記念行事は盛会のうちに終つた。

同劇場は、大劇場が六日から歌舞伎「菅原伝授手習鑑」第一部、小劇場が三日から東西顔見世舞踊で初公演の幕を開いたが、伝統芸能の殿堂としての同劇場の今後に期待する声は大きく、また、十三日には天皇、皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、二十日には皇太子、同妃両殿下の行啓、その他各宮家の御観劇などが続き、大劇場は連日各界各地のひとびとで演員の盛況である。

文化財映画「特別天然記念物ライチヨウ」（板題） の製作すすむ

昭和四十一年度文化財映画は、文化財保護委員会と富山県、長野県および静岡県の関係三県が製作の主体となり、日本シネセル株式会社が製作担当会社となつて製作をすすめている。

この映画の製作意図は、学術的にきわめて価値が高く特別天然記念物にも指定されているライチヨウが、近時、登山者の急増、観光開発の急速な進展などの原因により、生息適地の減少その他保護上に種々問題が起りつつあることが憂慮されている。このため特別天然記念物ライチヨウの保護の万全を期するため、まずこの希少な鳥に対する国民一般の認識と理解を深める必要が痛感され、その生息する日本アルプスの自然環境を舞台として、その生態をフィルムに記録し、文化財愛護精神の普及高揚に資そうとするものである。

この映画製作については、内田清之助（日本鳥類学会名誉会頭）高野伸二（山嶠鳥類研究所）羽田健三（信州大学助教授）植木忠夫（富山大学名譽教授）武田久吉（日本山岳協会会长）辻村太郎（東京大学名譽教授）柴井三郎（富山大学教授）大町市大町山岳博物館長などのほか映画、視聴覚の専門家登川直樹、大内秀邦、水谷徹男、宮田高男の十三氏および事務局関係官で打合せ会をもち、基本構想、シナリオの検討を行なつてゐる。

なお、この映画は、本年四月から撮影に入り来年三月末に完成の予定である。